

言語活動を通して表現力を育てる

音楽科 小川 美紀

1. 主題設定の理由

音楽科では「コミュニケーションを基盤とした、自立し協同する力を育む教育」を目指し、「自分の思いを表現しあう」ことを大切に、授業づくりをし、歌唱表現を考えてきました。単に歌唱するのではなく、歌詞の内容や、曲想などから、イメージを持ち、心情や情景を考え、他者とどのような表現ができるか、どのようにイメージを伝えるか、工夫し、話し合い、意見交換を繰り返すことで、新たな発見や考えが再構築され、相互理解し合うことで、自立し協同する力が育まれる。そして音楽表現の創意工夫につながって行く。表現しあうためには、知覚（判別し意識する）・感受（特質や雰囲気などを受け入れる）が重要になってくる。例えば、歌唱においてその曲を「このように歌いなさい」という教師主導ではなく、「どのように歌いたいか」「なぜ、そう思ったのか」という問いかけをすることで、生徒の「思い」を大切にしました、話し合うことで、よりイメージが膨らみ、表現力につながる。ここに、音楽のコミュニケーション力が存在し、音楽を通しての人間形成ができるのではない。

言語活動は手段で、知覚・感受を手がかりとしながら、思考力、判断力、表現力を獲得する場面では、言語的コミュニケーションが行われ、それを、音、音楽で向き合うことが、非言語的コミュニケーションである。音楽は言葉で言い表せないところに良いところがあるが、言語活動を通して、思考、判断し言葉にあらわすことで顕在化する。コミュニケーション力を深め、高めることにより「自分の思いを表現しあう」ことができると考える。音楽科では知覚・感受する場面を作り、共有し、何を考えさせるかを明確にし、生徒同士が言語活動を充実させ、表現力を身につけさせたいと考えている。

2. 実践の概要

表現を考える最初の段階として、モノローグ的歌唱表現の曲に取り組み、転調している箇所や音楽記号の付いている箇所を知覚・感受し、情景や心情と結び付けることで歌唱表現を工夫して歌った。この授業を発展させ、次に、歌詞がモノローグではなく、ダイアログとなっている楽曲に取り組み、背景となる情景やその中での互いの心情の変化を表す曲想を知覚・感受しながら、人との関係性の中で歌唱表現を工夫させたいと考えた。教材は内容がダイアログとなっていて、生徒にも身近であると思われる、オペレッタ“メリーウィドウ”の「ときめく心に」とした。生徒は相手と関わって変化していく心情を音色（声の響き）と強弱を工夫して表現することになる。音楽を形づくっている音色や強弱の変化を知覚・感受し、言語活動を通して意識化を図ることで明確になったイメージを表現するため、音楽の要素を関わらせ、創意工夫して歌う楽しさを味わわせたい。

<具体的な指導例>

・単元の目標

- ・曲の内容に関心を持ち、意欲的に相手と関わりながら歌唱表現に取り組む。
- ・状況や心情の変化を表す音楽を知覚・感受し、歌唱表現を工夫する。
- ・表現したいイメージが他者に伝わる歌唱表現ができる。

・評価規準表

音楽への感心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
曲の内容に関心を持ち、意欲的に相手と関わりながら歌唱表現に取り組む。	自分がイメージした状況や心情の変化を歌で表現できるように、知覚・感受しながら工夫する。	表現したいイメージが他者に伝わる歌唱表現ができる。

・指導計画（全5時間）

- 第1次 モノローグ的歌唱表現（「帰れソレントへ」） 2時間
- 第2次 ダイアログ的歌唱表現 3時間
- （第1時）・全体で「ときめく心に」を歌い曲想を感じ取る。
- ・“メリーウィドウ”のストーリーと、この場面の状況を知り、グループごとに、歌詞する。 （1時間）
- （第2時）【本時】歌唱表現の創意工夫 （1時間）
- ・場面の状況を理解し、2人の登場人物の心情や場面の雰囲気イメージする。
 - ・男女で意見交換しながらイメージした心情や状況から歌い方を工夫する。
 - ・中間発表により、歌唱表現の工夫を深める。
- （第3時）自分たちのイメージが伝わるように歌唱表現する。 （1時間）

・言語活動のマトリクス

コミュニケーション 単元	言語的コミュニケーション	非言語的コミュニケーション
	音や音楽によるコミュニケーションを図るための思考・判断・表現の場面	音や音楽によるコミュニケーションの場面
情景や心情をイメージし、ダイアログの歌唱表現を工夫しよう	感じた曲想から、どのように歌い合いたいと考えたかを、言語により理解し合う	自分たちの思いが伝わるように、知覚・感受を通して思考・判断した工夫を生かし、歌って表現し合う

・本時

（1）目標

- ・対話になっている歌詞に関心を持ち、イメージに基づいて意欲的に歌唱表現をする。
- ・2人の登場人物について、イメージした心情や場面の状況から歌唱表現の工夫をする。
- ・工夫したことを歌唱表現することができる。

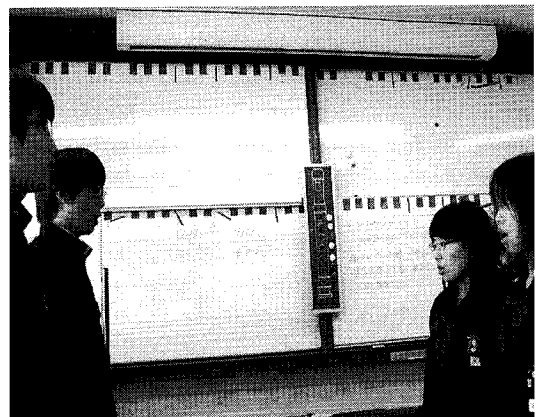
(2) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・モノローグ的に歌唱し、自分のもったイメージを表現する。 ・曲想がダイアログになっていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容からイメージをもった状態で歌唱させる。 ・歌詞の内容と音楽との関係が、雰囲気を作っていることに気づかせる。 	
展開	<ol style="list-style-type: none"> 1、男女で意見交換をしながら、それぞれの曲の2人の登場人物のダイアログから心情や状況を音楽と関わらせてイメージする。 2、イメージした心情や状況が伝わるように歌い方を工夫しながら練習をする。 3、自分たちのもったイメージを歌唱表現するために工夫したこと、練習したことを説明し、中間発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアログからイメージをもたせる際、必ず歌いながら知覚・感受を通して曲想との関係を考えるようにさせる。 ・表現したいイメージが、声の響きや強弱の工夫によって伝わっているかを、知覚・感受を通して、確認しながら練習させる。 ・中間発表での歌唱を聴いて、発表したグループが説明したイメージや工夫が、歌唱表現にどのように表れていたかについて批評させる。 	<p>〈観点1〉 意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>〈観点2〉 声の響き、強弱、などを知覚・感受しイメージとの関係を理解し、考えているか。</p> <p>〈観点3〉 自分たちのイメージが他者に伝わるように歌唱表現できたか。</p>
まとめ	中間発表から、歌唱表現の工夫が生かされたかを省察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな意見から自分達の表現について再度考え、発表に意欲を持たせる。 	

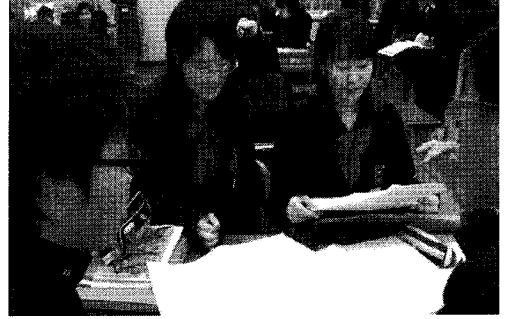
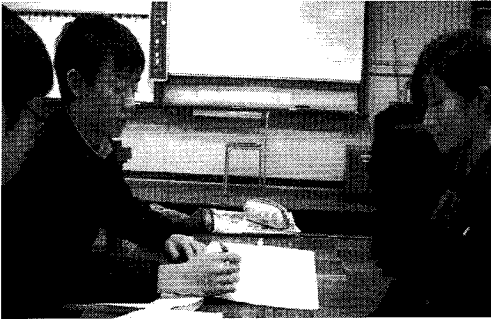
モノローグ的に歌唱する場面



ダイアログ的に歌唱する場面



<言語活動の場面>



男女で登場人物の心情や場面の情景からイメージをふくらませている

<ワークシート1>

<歌で対話を表現しよう！>

♪オベレッタ

メリーウィドウから「ときめく心に」

♪ 物語から

この場面に至るまで

① 二人のプロフィール (何をしている人)

ダニロ 公使館書記官、予備役騎兵中尉	ハンナ 未亡人・破産地主の娘
-----------------------	-------------------

② ダニロとハンナの思いはどうなっていたか

ダニロはハンナに対して 結婚をしたいけれど大金持ちに任せてハンナに言わせたい
ハンナはダニロに対して 好きだけれど意地を張って素直になれない
ダニロが自分のことをどう思っているかわからず不安

③ この場面の意味 (ダニロとハンナが何をしている場面か) *自分の愛を確認

第3幕ではハンナとダニロは結婚するのでそれまでの二人の感情の変化などを表わされている。

④ 二人のキャラクター (性格)

ダニロ 消極的	ハンナ 意地張り
---------	----------

この場面で

⑤ ダニロ、ハンナは相手のことをどう思っているのか

ダニロ 自分から結婚を申し込めないでハンナから言わせたい。	ハンナ ダニロから結婚を言わせたい。
-------------------------------	--------------------

⑥ お互い、どうありたいと思っているのか。

ダニロ お金持ちではなく素直な気持ちで向き合いたい。	ハンナ ダニロの昔の関係に戻りたい。
----------------------------	--------------------

⑦ この二幕の中で2人の気持ちは、どう変化していったのか。

ダニロ やっぱりハンナが大好きだと確信する	ハンナ ダニロからの愛と自分からの愛を確信する
-----------------------	-------------------------

このワークシートでは全体のストーリーを理解し、歌唱する場面で二人の登場人物のダイアログから、心情を読み取りイメージを膨らませる。歌唱する場面までの二人の気持ちと歌唱する場面の二人の気持ちの変化から、歌い方を工夫し、どのように表現すればよいかを考える。

イメージしたことを次に楽譜上に書き込みグループで考えた表現をどう伝えるか、歌唱しながら考えて

<ワークシート2>

オペレッタ「メリーウィドウ」から「ときめく心に」

・同じリズムが続くので、そのたびに感情が変化する。
 ・感情のピークで「おの愛を聴けー」、「君に届けー」と心の声で叫ぶ。
 ・セリフを入れて心の声を聞いてもらう
 学習のキーワード

レハール

こんな気持ち こんな響き こんな歌い方

H [抱れる思い おの者の心は... 後はどう思っているのしら?]
 D [抱れる心 おの者の心は... この思い、今もずっと抱えたいからや]

H []
 D [ひとり ひとり ハンナの心に届けるために]
 D [おとハンのことを思っていた]

H []
 D [mp (おとハンのこと)]
 D [だけど このままじゃだめだ]

(前奏からダニロ (男性の主人公) のソロの楽譜)

このグループは二人の
 想いを前奏にのせ、
 リフを入れ、「心の声
 として表現を考えてい
 る。歌う場面では歌い
 方の工夫を考え、強弱
 にも着目していること
 がわかる。実際の演奏
 ではセリフがとても有
 果的で心情がよく伝
 っていた。

あきらめている。
 [あきらめ]は やくりしたんだし 小さくはないよ。
 H []
 D [満足してはいてもあきらめ入る]
 D [心身の思いを伝える。]

歌いながら
 からダニロ
 ちがうよ。
 H [ハンナも音を思い出して自分自身の思いを伝える]
 D []

H []
 D []

D [自信が復活!]
 D [ハンナは自分のことを]
 D [思いとくちさ...]

このグループは八
 分休符と音の流れ
 を知覚・感受し、ハン
 ナ (女性の主人
 公) の気持ちを表現
 しようと考えてい
 る。

H [あいつとを賛賞して昇天。]

D [ハントは自分との結婚を告げ、男前だ、言ってく]

H [やと私が望んでいたことが現実になって晴]

D [いふことは、ハントの気持ちを知って、複雑な気分。]

H [れやかな天に昇るような気持ち。この幸せな気持ち]

D [その気持ちで葛藤している。でもハントの本当の気持ちを愛している。]

H [らげずと続けたいと思う。]

D [そして、ふんふん喜びに満ちあふれている。]

H [今までいろんな辛いことがあったことを思い]

D [ハントをずっと好きに思っている。]

喜び!!

互いの想いをソロで歌い終わった後の間奏の部分では、二人の主人公の心情や状況を、音楽とかがかわらせながら表情などを考えている。

最初の二人の気持ちと、この場面での気持ちの変化を読みとっている。

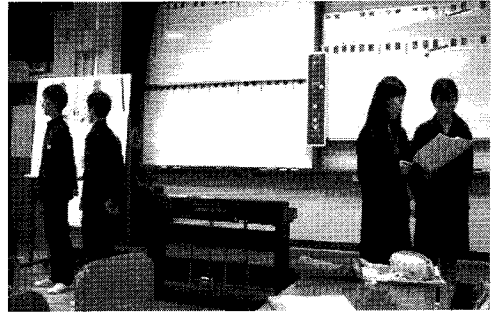
(間奏からデュエットに入る場面の楽譜)

他に気持ちを高める表現としてフォルテで歌うグループが多かった中、ダニロ（男性主人公）のシャイな性格から、思いを素直に伝えられない気持ちを読み取り、逆にピアノで表現するグループもあった。気持ちの高まり＝フォルテではなく、思いを抑えてピアノで、気持ちの高まりの表現をするという考えのグループもあり、生徒は音とかかわりながら、いろいろな方法で表現の仕方を考えていることがわかる。また登場人物の心情を効果的に表すために、rit. やフェルマータなどの音楽記号を用いるグループもあった。動きやセリフを考え、思いがうまく伝えられない気持ちを距離をとることで表現し、生徒は登場人物のキャラクターや心情、場面をよく理解し、工夫していた。またグループでの話し合いの場で、男女が歌唱し、気持ちを音楽とかがかわらせて、活動が活発に進められていたことは、非言語的コミュニケーション（音によるコミュニケーション）として充実していたと言える。

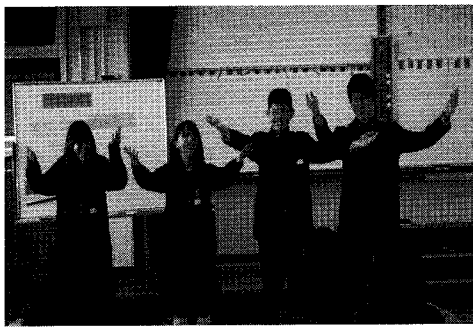
<発表の場面>



口を開き声の響きを工夫して歌っている



距離をとり、男女の気持ちの葛藤を表現



最後のシーンに動きをつけて表現している

<ワークシート3>

<振り返りシート>

ハンナ 音楽家と料理師、わずか8日で素人になった、舌く美しい女性。
 ダニロ 公務員と料理師、結婚、運命「マキシム」でお鳥を教習毎日をおくる。

自分の歌劇法で「自分がダニロやハンナの気持ちを表現できた!」と思う
 部分はどこですか?

(クワ) (マ) の器所の (ダニロ・ハンナ) の
 (奇異が持前の心機作のつわい) という気持ちを
 (大さずす小さすす) なるの響かせ方や、(ハナ)
 (大さすす小さすす) な歌い方によって表現できたと思っ
 てそれができるためにどのような練習をどのようなところに気をつけてしまし
 ましたか?

このように表現するために
 男声の響かせ方と女声の響かせ方、声の届かぬように、
 声の届かぬように歌うことに気をつけて。
 このような練習をした。
 練習のやりかたは、声の届かぬように歌う練習をした。

自分の歌劇法で表現しきれなかったと思うところ

が、口を開き声の響きを工夫して歌っている ができなかったから

ハンナを愛する気持が表現できなかった が表現できなかった

<音色について>アンケートより

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・メロディーにストーリーがあるイメージ ・きれい ・美しい ・優しい ・強い ・激しい ・楽しい ・ルンルン ・澄んでいる ・のびのびとした音 ・よく通るのびやかな音 ・よく響いてのびやかな感じ ・伝えたいことが秘められている感じ ・曲の雰囲気や伝えたいものを一番あらわしているメロディー ・聞いていて何かを感じる音 ・高い声で優雅 ・高くもなく低くもなくいいかんじ!! ・深みのある声 | <ul style="list-style-type: none"> ・何かを訴えてくるような音色 ・あまり哀しそうではない音色 ・男性の悲しい時やこわい時に歌われる音色 ・人の心情をあらわしている ・広く響き渡るきれいな音 ・曲の内容や雰囲気によって変えるもの ・ROCK ・悲しい歌だったら高い音やすごく低い音、明るめの曲とか
 だったら中音域で歌う。音色を聴くとその歌に入りこめる
 (感情移入) ・歌詞の意味を考えて、その曲にあった気持ちでうたう声。そ
 すれば音にもただの音でなくて色みがつく気がする ・歌詞とリズムにあった音 ・低いけど強い 響きが良い |
|--|---|

<生徒の感想>

- ・僕が一番頑張れたと思うことは、「表現を考える」ことです。授業内で班ごとに自分達が伝えたいハンナとダニロの姿を創作し、歌い方を考えるのは、とても楽しかったです。ダニロはハンナに想いを伝えたいけど伝えられないという葛藤を抱えていて、それを表現するのが最も苦労しました。しかし、この「表現を考える」音楽の授業を通して、自分の表現の幅が広がったと思います。
- ・私はオペラやオペレッタ、ミュージカルについて学んで、歌うということで、とてもたくさんの表現ができるということがとても興味深く感じられました。今まではただ歌うだけでしたが、ストーリーがあって歌うキャラクターの気持ちを考えて、それを表現できるように工夫しました。歌うことで表現するということは難しかったけれど、それだけがんばれたと思います。
- ・この1年間で合唱するのがとても興味深いことだと気付きました。混声四部合唱からオペラにチャレンジして、複雑なかけ合いや音域の広さ、全員の声が合わさった時の迫力から「歌を通して表現する」ことをはじめて知りました。メリーウィドウでは「カルメン」とまた違って繊細な感情を表現することを学び、歌に対する意識がさらに高まりました。
- ・私はダイアログである「メリーウィドウ」が興味深く、授業でどのように歌えばハンナやダニロの気持ちが一層伝わるのかを考えました。今まで考えたことがあまりなかったので新鮮で、また、歌い方でこんなにも同じ歌詞なのに違う感じ方になるのかと驚きました。

<成果と課題>

この単元では、〔共通事項〕の音色、強弱に基づき、歌詞の内容や、曲想を感じとり、言語活動を通して、自分の思いを大事にし、グループで表現を考えてきた。物語の内容から主人公の心情を考えて、創意工夫する場面では、グループでの話し合いが活発に行われ考えられたこと、歌唱しながら意見交換ができたことは、言語活動が充実していたと言える。また、生徒の感想から、表現を考えて歌うことの楽しさも味わわせることができた。

〔共通事項〕の強弱に関して、歌詞や音の流れを知覚・感受しながら強くしたり、弱くしたりして表現を考え、音色に関しても、どのようにすれば、登場人物の気持ちにそった響きのある声になるのか、工夫がみられた。ただ技能を高められたかという点、まだまだである。歌い込んでもしっかりと響きのある声を作っていかなければ、他者に伝わりにくくなってしまう。発声や歌い方にもより一層の工夫が必要である。表現したいことを音に変えるということは難しいことではあるが、楽譜を確認し、語感や旋律の流れを読み取り、生徒の考えたことを音で拾いあげ、知覚・感受し、共有する場面を作り、考えるポイントを明確にして、これから、つけたい力にふさわしい言語活動を位置付け、生徒の思考力、判断力、表現力を深め、「音楽表現」をさらに考えていきたい。